愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2023年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	解剖生理学Ⅰ		
担当者(Instructors)	中野 匡隆	配当年次(Dividend year)	1
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

本講義では「正常な人体の構造と形態（解剖）と機能（生理）」を学び、人間の健康を学ぶために必要な知識を習得する。それによって、生活の中で役立つような知識として身につけることを目的とする。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	基本は講義形式で授業を行い、適宜ディスカッションの機会を設ける。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	本授業の概要と解剖生理学総論（１）：人体の各区分	授業の進め方と「解剖生理学Ⅱ」の概要について説明する。解剖生理学総論：人体の各区分について学習する。	□
第2回	解剖生理学総論（２）：人体の構成	細胞、組織、期間、各器官系、とその働きの概要について学習する。	□
第3回	呼吸器系（１）呼吸器系の器官	呼吸の機能を担う諸器官の構造について学習する。	□
第4回	呼吸器系（２）呼吸の生理	ガス分圧差による拡散の仕組みを理解し、酸素と二酸化炭素の肺胞-血液間、血液-細胞間でのガス交換および運搬について学習する。	□
第5回	循環器系（１）心臓の生理、血圧と脈拍	心臓の構造と働き、心拍出量の調節、心臓の電気的興奮を理解するために特殊心筋の刺激伝導系および血圧と脈拍について学習する。	□
第6回	循環器系（２）血管系、リンパ系、血液、体液	血液の成分である赤血球、白血球、血小板の働きとそれぞれの役割および体液の組成や酸塩基平衡について学習する。動脈と静脈およびリンパ管の構造の違いからそれぞれの役割について学習する。	□
第7回	体温調節（１）体温、体熱の産生と放散、体温の調節と異常	核心温、皮膚温の違い、体温が変化する仕組みとして蒸散性熱放散と非蒸散性熱放散について学習する。	□
第8回	体温調節（２）：熱中症（暑熱環境での体温調節機能）、行動性体温調節	熱中症（暑熱環境での体温調節機能）、行動性体温調節について学習する。	□
第9回	解剖生理学総論、循環器系、呼吸器系、体温調節についての学習内容の振り返り	解剖生理学総論、循環器系、呼吸器系、体温調節についての学習内容を振り返る。	□
第10回	内分泌系（1）：内分泌系総論とホルモン	ホルモンの分泌形式と内分泌腺の役割、ホルモンの種類と機能について学習する。	□
第11回	消化器系（１）消化器系総論、消化器系の器官	消化器系の役割（消化と吸収）、消化器系の臓器の位置、臓器の関わり、細胞の種類について学習する。	□
第12回	消化器系（２）栄養と代謝	栄養素とエネルギー代謝について学習する。	□
第13回	泌尿器系：尿の生成と排泄	腎臓における腎単位の構造と働き（濾過、分泌、再吸収）による尿生成の過程を理解し、その排泄のメカニズムについて学習する。	□
第14回	生殖器系：生殖と人の発生	男性の生殖器と女性の生殖器、人の発生から出産までの過程や月経について学習する。	□
第15回	内分泌系、消化器系、泌尿器系、生殖器系についての学習内容の振り返り	内分泌系、消化器系、泌尿器系、生殖器系について学習内容を振り返る。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

【事前学習】授業内容の概要をみて、テキスト、参考図書、webを利用し、講義に関わる用語について予習する（１時間）。 【事後学習】この講義の理解を深めるためには『ノート制作』がとても重要である。講義終了後、学んだことを整理しながらノートを作成し、確認小テスト

に備える（3時間）。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

随時、質問・相談を受け付ける。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019人間健康DP1	１．ヒトの身体の各器官系における基本的な構造と働き（各回のテーマ）を理解している。 ２．ヒトの身体の各器官系における基本的な構造と働き（各回のテーマ）を説明できる。 ３．ヒトの身体の各器官系における基本的な構造と働き（各回のテーマ）を生活の中で役立つような知識として身につけることが出来ている。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
40%				60%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

その他６０％（授業内レポート課題４０％、中間レポート課題２０％）

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	必要に応じて、資料を配布する。	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	中村千秋（翻訳）、竹内真希：身体運動の機能解剖学 改訂版、医道の日本社	978-4-7529-3063-1
2	竹内修二、解いてわかる解剖生理学、医学教育出版社	978-4-87163-466-3
3	竹内修二、読んでわかる解剖生理学、医学教育出版社	978-4-87163-465-6
4	新看護学１専門基礎［１］人体の仕組みとはたらき、医学書院	978-4-260-01816-6
5	その他、適宜、紹介する。	